

OLD & NEW 辻長蔵と憩の場の整備と活用

とよさとまちづくり委員会
(滋賀県豊郷町)



辻長蔵と町並み



辻長蔵での定例会

I. 活動の背景と目的

豊郷町は少子化や若者の流出で、若年層の減少が続いている。江州音頭の発祥地や近江商人発祥地でもあり、歴史的資源を持ちながら、十分に活用できていない現状もある。そんな中で、「ここに住み続けるのだから何か楽しいことができないか」と20代、30代の若者を中心に声があがり、2000年2月に第1回の会合を持った。

地方分権、市町村合併と変革する時代の中、自分たちの暮らす「まち」について、若い世代の視点で見つめ直し、活性化を図っていこうと20代を中心とした若者たちが「とよさとまちづくり委員会」を結成した。

町のことを少しでも把握しようと、月に1度定例会を各地域の公民館で開き、今、自分たちが持っている町のイメージやこれからどんな町にしていきたいかなどを話し合い、4つの柱をつくった。

- ①まちのPRをしよう
- ②まちの夏祭りをもりあげよう
- ③まちの先生になろう
- ④すみよいまちにしよう

地域の公民館をまわり、定例会を重ねるなかで、自分たちの自由に集まれる場所が必要であることを認識し始めた。そんななか、メンバーの一人が聞いた、取り壊し予定の蔵の話。その蔵は、100年以上前のもので、民家は先に取り壊しをされていた。

蔵は、約500年前にあった吉田城の跡地にあり、周辺は「城屋敷」といわれていた。現在は、蔵の隣に城跡碑が建てられている。

空き蔵の持ち主は、大阪に在住の老夫婦。体が不自由になり、大阪から帰れなくなることを考え、取り壊しを望まれていた。まちづくりのために蔵を使わせてほしいとお願いしたところ、快く無償で貸りることができた。

かつて呉服屋を営んでいた家の古蔵を借りて「人が集い、憩える場」である活動拠点として、2001年11月から1年かけて、メンバー自らが修繕し蔵を再生した。

蔵は持ち主の名前にちなんで、「辻長蔵」と命名された。改修前の蔵の2階には「長もち」がたくさんあり、そこに「辻長」と

いう屋号が書かれていた。土地にちなんだものにしたいという思いと、大阪に住んでいる持ち主に、「田舎に帰ってきて蔵を見て欲しい」という思いから名づけた。

自分たちが楽しいことをやっている、それがたまたま「まちづくり」だった。発足から3年目蔵の改修も終わり、これから活動をどうしていくかを模索しながらも、当初の基本である「自ら楽しもう」と集まってくるメンバーである。

登録メンバーは約40人、10代から70代まで年代は幅広い。中心は20~30代。考えの前向きな人、楽しいことをしたい人の集まり。会合のみの参加の形をとっているメンバーもいる。

II. 活動の内容

(空き蔵を核にいろんなことをやってみよう)

2-1. 町の特産物を考える

町内で生産されている「ぼっちゃんかぼちゃ」(手のひらサイズのミニかぼちゃ)がまちの特産物。物産品づくりとまちの特産物の活用について学ぶため、先進事例を視察。食べるだけでなく、かぼちゃの可能性を考えるイベントも企画。

2-2. 特産物にふれてもらう パンプキンまつり

ハロウィンにちなんで、まちの特産物、ぼっちゃんかぼちゃのアピールイベントを開催。親子でランタン作りや、地元も菓子屋さんの協力を得て、特別にかぼちゃのお菓子を作ってもらった。参加したのは就学前の子どもやその親を中心に200人。保護者も楽しめるようにと、フリーマーケットやミニ屋台も出店。地元の人による「風船ショー」などの地域の協力もあった。

2-3. キリンフェスティバルへの参加

町のPRと、豊郷町は江州音頭発祥地であることのPRをかねて、キリンビール多賀工場で行われるフェスティバルに参加。幼稚園児たちに江州音頭を披露してもらい、豊郷町の風景写真も展示了。

2-4. 町のまつりに企画運営から参画

8月に行われる町全体のまつりに企画の段階から参画。まつりの会場周辺を手づくりのペットボトルのあんどんで囲んだ。参加する人が楽しめるイベントをメンバーで話し合い企画運営。町の行事には積極的に参加しており、行事に合わせてイベントを開催するなど、町行事の活性化にも力を注いでいる。

2-5. カロム日本選手権豊郷大会

まちの地域にある蔵の街並みや昔から滋賀県湖東地域に残るカロムを通して、まちの魅力を再認識してもらうことを目的に



第3回ゆめ街道とっとまつり
(8月に開催された町の祭り)



カロム日本選手権豊郷大会

開催。カロムは、おはじきを使ったビリヤードのようなもので、90センチの四方の木の枠を使って行う。地域では、老人福祉のリハビリにも利用されていることもあり、子どもからお年寄りまで世代間を越えて楽しんでもらえるゲームである。

蔵のとなりにある酒蔵の2階を貸していただき、町内外の参加者をつのって、対戦してもらう。終わったあとは、辻長蔵のイベントで交流を深めてもらった。

地域の大人と触れ合うことが少なくなってきた小学生のこどもたちに、地域で楽しむことを実感してもらえた。

この大会で優勝したチームには、彦根市で行われる「カロム日本選手権大会」に出場してもらい、メンバーが応援幕をつくってエールを贈った。

2-6. 蔵の整備

地域の憩いの場として提供するため、周辺の照明を整備し、外でくつろいでもらうイスやテーブルなどにペンキを塗り重ねた。また、2002年度は、昨年手間どった藤棚づくりの経験を生かし、屋根つきの建物を設置することができた。この設置に伴い、蔵の敷地内は、6月から8月にかけてバーベキュー施設として貸し出すことを計画している。

照明器具は、商工会が管理できなくなった街灯を、蔵の周辺へ移設した。移設費を節約させるため、工事はみんなで行った。

また、蔵の前には町内の案内看板を設置した。看板は、手作りで2002年度新たに加わった大学生メンバーが中心となって製作した。

2-7. その他

豊郷町が主催するオータムフェスティバルへの参加やオールディーズコンサートなどの独自イベントを開催した。

III. 活動の効果および今後の課題

2002年度の活動は、前半はイベントの開催、後半は、蔵整備を行った。

親子で参加できるイベントを実施したことにより、就学前の家庭に活動が浸透してきたという手ごたえがあった。

辻長蔵を再生させたことで、「できる」という自信が出てきている。蔵のある地域周辺では、かなり活動を知ってもらえるようになった。地域との協力関係もできつつあり、この秋、共同でイベントをやろうという話もでてきている。

ただ、この1年はいろいろなことをやってきたので、結成3年目を迎えてじっくりと蔵をテーマに活動しながら、方向性を探っていきたいと考えている。

2003年度は、出来上がった辻長蔵をどのように活用させ、運用していくか、いくつか出している案を検討し、みんなの意見を



外灯整備



看板づくり



辻長蔵の隣りの酒蔵で開催した
オールディーズコンサート

取り入れ再度改築をしていく予定である。

また、空き家の調査を行ったが、地域に点在させて再生をすすめるのか、それとも、今のエリアを拡大させていくのか再生した後の活用方法と運用方法を考えながら、検討しているところである。

これからも、空き家や空き蔵をテーマにじっくりと活動しながら、またみんなで楽しみながら、何ができるか探っていきたい。蔵のある街並みの再生に取り組んでいきたいと考えている。

<団体活動データ>

■とよさとまちづくり委員会

活動テーマ	OLD & NEW辻長蔵と憩の場の整備と活用
活動目的	取り壊し予定の蔵を「辻長蔵（つじちょうくら）」と名付け、修繕整備の上コミュニティスペースとして活用し、町内に点在する昔の面影の残る建物（点）を結ぶ核とする。これにより、地域間の交流を深めるとともに町の魅力を高める。
設立年月	2000年2月
代表者名	青山 裕史
活動地域	滋賀県豊郷町
メンバー	62名（うち地区内住民51名）、20代及び30代の若い世代を中心に構成

●団体設立の経緯

進学、就職、結婚を期に、町から若い世代が流出していることをきっかけに、「町の若者が集まって話し合う場をつくろう」と、2000年2月に設立された。自分達の暮らす「まち」について、若い世代の視点で見つめ直し、活性化を図っていくことを目的としている。豊郷町役場の若い職員がコアメンバーである。

●活動地域図

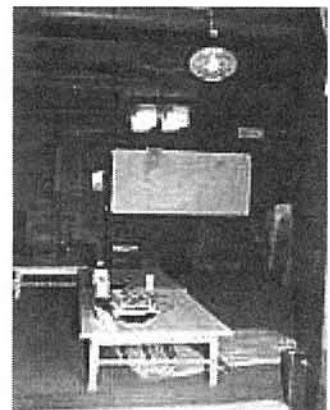


●これまでの活動

メンバー間の意見交換で、歴史的、伝統的なものを新しい感覚で整備して残し、新たな憩いの場として再生する「OLD & NEW」を委員会のコンセプトに据えることとした。それまで定例会は毎月町内の公民館を回って利用していたが、吉田に取り壊し予定の古い蔵があるという情報を入手したのをきっかけとして、大阪市在住の持ち主から無償で借り受け、2000年12月から1年かけてこの蔵と周辺の修繕整備を行い、蔵（辻長蔵）を活用したイベントを開催している。また、町の特産物「ぼっちゃんかぼちゃ」（手のひらサイズのミニかぼちゃ）のPR方法の検討（食べるだけないイベントの企画等）を行い、地域活性化の起爆剤としての活用を模索してきた。



2000年11月　はじめての蔵の掃除



整備後定例会を行っている辻長蔵1階



整備前と後の辻長蔵とその周辺



●助成対象活動

・まちの祭り（第3回ゆめ街道とっとまつり）の企画・運営

まつりの会場周辺を手作りのペットボトルの行灯で囲んだほか、町内の商工業者の協力によるゲーム大会の開催、模擬店の出店等でより多くの参加者を得る工夫をした。

・蔵を活用したイベント（カロム日本選手権豊郷大会、パンプキンまつり等）の実施

パンプキンまつりでは、親子でぼっちゃんかぼちゃのランタン作り、町の菓子屋の協力によるかぼちゃ菓子の無料配布、かぼちゃメロンパンの販売、住民による「風船ショー」の実演等を行い、就学前の子どもと親が楽しめるイベントに仕立て上げた。

・蔵及びその周辺の整備作業（外灯設置、看板づくり等）の実施

町の商工会から外灯管理の話があり、管理者がいない外灯を撤去し辻長蔵に設置し同団体が管理することとなった。看板は、滋賀県立大学生の協力によって完成した。

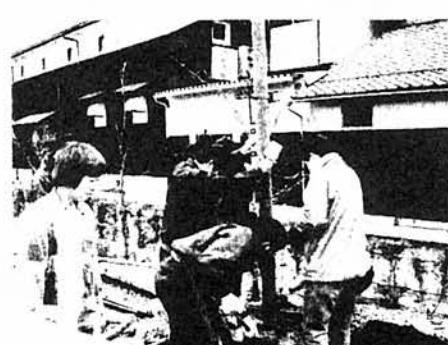
・県内研修会（高島町、永源寺町）の実施

高島ビレッジ（高島町）・・・高島町商工会青年部有志が中心になって古い民家を改装し、新しい観光スポットとした。

ヒトミワイナリー（永源寺町）・・・ワインの製造、販売。ワインの販売生産が、まちのPRと地域の活性化につながっている。



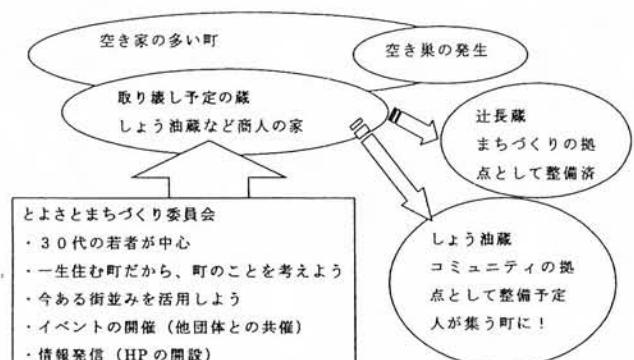
定例会の様子「豊郷町の農家の実状と特産物について」



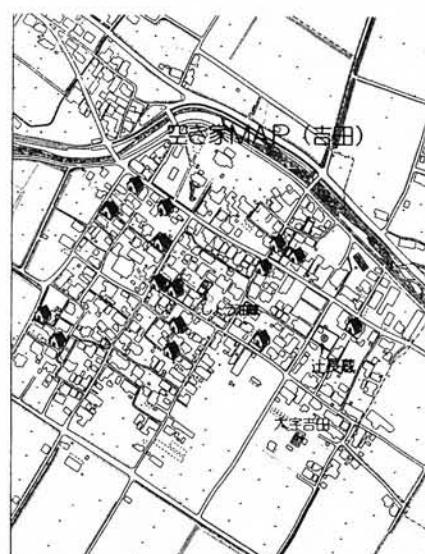
外灯設置

●これからの予定

平成14年度は、多くのイベント等を実施し、一応の成果が上がった。今後は、できあがった蔵の活用方策を更に検討するとともに、他の空き家（蔵等）の活用をも視野に入れて活動していく。具体的には、辻長蔵の近くにあるしょう油蔵（空き蔵）の活用方法（地域住民が気軽に集まる場所等）を検討する。また、2軒の蔵の改修をきっかけとして、その周辺の空き家を活用したまちの活性化についても検討する予定。



これからの活動イメージ



空き家マップ